

I 水産物の価格予想

1 総論 ～全般的に「前年並みからやや安め」～

- 全般的には、「前年並み」から「やや安め」の傾向となっている。鍋物材料も「やや安め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
原材料が輸入に依存するすじこや数の子などは、コロナの影響で入荷が減少し、品薄の状態である。
- その他
秋に取れる鮭の値段が高騰した結果、いくららの価格に影響した。

2 水産物の価格の見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	まぐろ(脂身)	海水温の上昇により水揚量も減少傾向。良品が少なく、脂がのったまぐろがいる漁場に入札が集中するため、高価傾向。
2	タラバガニ	アラスカ産の減産及びロシア産とアメリカ産の競合による価格高。
3	いくら	コロナで海外製品が激減し、価格を引き上げた。
4	すじこ	輸入が伸びず、国内相場が高騰。

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	ぶり(天然)	水揚量はやや減少で推移しているため、価格が高い。
2	塩ざけ	全体的に水揚げが少なく、高値で推移。
3	数の子	アラスカ産原料が出港できず、入荷が激減のため高値で推移。

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	かれい	例年並みの水揚げで推移。
2	ふぐ	品薄だが需要も減。
3	いか	天候で左右されるものの、水揚量は前年並み。
4	たらこ	原料の輸入は昨年並み。
5	めんたいこ	原料の輸入は昨年並み。
6	かまぼこ	全体的に昨年並み。すり身の需要増による原料価格の上昇、物流・人件費の上昇で値上げ傾向。
7	伊達巻き	昨年並み。価格は安定的だが、原料価格、物流・人件費は上昇傾向。

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	あじ	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
2	サバ	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。

3	まだい(天然)	水揚量は例年並み。コロナの影響で需要減。
4	まだら	前年並みの水揚げで推移。
5	煮ダコ	コロナの影響で需要が低下、やや安めの傾向。
6	ブラックガ-	コロナで業務向けが販売不振のため、全般的な市況相場は安値傾向。
7	酢ダコ	水揚量は例年並みで推移。

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目 (価格下落が概ね1割を超える見通しのもの)

1	ぶり(養殖)	コロナによる需要の低下で安値傾向。
2	はまち	コロナによる需要の低下で安値傾向。
3	まだい(養殖)	コロナによる需要の低下で安値傾向。
4	まぐろ(赤身)	海水温の上昇により水揚量も減少傾向。良品が少なく一部高値のものもあるが、コロナで需要が減少したため全体的に安値で推移。
5	甘えび	輸入の減及びコロナで飲食店等の需要が減少し、価格は低迷。
6	かき	外食関連の需要の減による価格安。

II 野菜の価格予想

1 総論 ~全般的に「やや安め」~

- 前年と比較すると概ね「やや安め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
加工用キャベツを中心に業務用野菜の販路が縮小している。量販店向け野菜は堅調だが加工向けが振るわず、業務用全体の販売が落ち込んでいる。
年末年始に需要のあるパック詰野菜(糸みつ葉や七草)は、コロナの影響で作業員及び作業場の確保が難しい産地もある。
順調な天候が続く豊作な反面、コロナで外食用、業務用の需要が落ち込み、市場の販売状況は厳しい。一方量販店は、巣ごもり需要(家庭内消費)の高まりで好調。
- その他
一般消費者向けは、豊作傾向から不足感はほとんどない。
野菜全般は、生育期の好天による豊作から出荷が安定し、安値が続いている。

2 野菜の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目 (価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの)

1	ごぼう	青森、群馬、九州各地など、収穫時期が異なるためダブつきが少ないが、干ばつ傾向のため生育が不良。
2	ばれいしょ	天候には恵まれたが、着果数が少ないため出荷量が減。

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目 (価格上昇が概ね1割以下のもの)

1	春菊	出荷は順調。12月に入り寒さから数量は減少傾向。
2	ブロッコリー	好天で11月に出荷を前倒し、12月後半は出荷減の単価は上がる見込み。
3	かぼちゃ	メキシコ産は12月中旬まで出荷が少なく、冬至の需要に向けて出荷が増量する見込み。
4	なす	高知県産を中心に昨年より出荷量が微減。ハウスものが生育不調のため、出荷ピークが遅れる可能性がある。
5	くわい	生育期（春から夏）の曇天、高温による肥大不足や作付面積の減少から単価が上昇傾向。
6	里いも	天候の影響で肥大不足。
7	やつがしら	作柄は良好だが、作付面積や生産者の減少から単価が上昇気味。
8	舞茸	健康需要（免疫効果）などの効果で、コロナ、インフルエンザ対策としての重要増の見込み。

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	さつまいも	好天により出荷量は例年並み。
2	にんじん	播種期の高温干ばつより発芽不良がみられたが、生育期の天候が良く生育が順調だったため出荷は平年並み。
3	えのき	出荷は安定的で相場も堅調。

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	小松菜	好天で生育順調、豊作傾向。寒波がなければ、安定出荷。
2	たまねぎ	収穫量が前年を上回る一方、加工が不調で、出荷量は前年を下回る。しかし、単価はやや安め。
3	ねぎ	出荷量は安定しているが、コロナによる業務加工関連の需要減より単価は安め。
4	ほうれんそう	好天で出荷を前倒し、年末にかけては寒波等がなければ豊作で、単価は下がる見込み。
5	レタス	好天で生育順調、豊作傾向。出荷調整で出回りが少ないが、クリスマス前頃から単価高となる見込み。
6	トマト	生育順調のため、単価の安い大玉中心の出荷となる見込み。
7	ピーマン	好天で生育順調、豊作傾向。安定出荷見込み。
8	だいこん	好天による豊作、年末にかけても順調に出荷予定。
9	生椎茸	中国で接種されたものが出回り相場を下げているため、純国産も相場が頭打ちになっているためやや安め。
10	本しめじ	安定出荷だが、他のきのこに比べ需要が落ちている。
11	エリンギ	量販店の年末商材からはずれたため、年末は安値傾向。
12	みつ葉	例年並みの出荷予想だが、日照時間に左右される可能性がある。

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	キャベツ	好天で生育順調、豊作傾向。安定出荷の見込み。
2	はくさい	好天で生育順調、豊作傾向。安定出荷の見込み。
3	きゅうり	11月は単価が下がったが、12月中旬以降は価格を戻し、例年より安値で推移する見込み。
4	れんこん	生育順調、豊作傾向のため単価は安値の見込み。

III 果物の価格予想

1 総論 ～全般的に「前年並み」～

- ・ 全般的には、「前年並み」の傾向となっている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響
全般的には影響はない。
- ・ その他
台風や長雨の影響を受ける柿、みかんは数量の減による価格高がある一方、その影響が少なかったリンゴは順調な出荷が続いている。いちごは前年並みの出荷を見込んでいる。

2 果物の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	柿	前年比50%の入荷予想のため、単価高で推移する見込み。
---	---	-----------------------------

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	みかん	春から夏にかけての長雨の影響で出荷計画の80～85%で推移する見込み。
2	りんご	台風の影響もなく、出荷量増。

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	いちご	長雨や高温の影響で例年より出荷が遅れ気味だが、12月中旬以降は出荷増が見込まれる。
2	グレープフルーツ	ここ10年程度の消費離れがあるが、アメリカ産の入荷量は例年に比べて多いため価格は安定。

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	オレンジ	入荷量は減少するもコロナの影響から重要も落ち込み、価格は安めで推移。
2	バナナ	国産、外国産ともに好況のため、安値で推移。
3	レモン	アメリカ産の原価高による輸入減の一方で、コロナの影響で業務（飲食店等）用の需要が激減したため安値で推移。

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

該当なし

IV ガソリン・灯油の価格予想

- 今年のカソリン価格及び灯油価格は、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛の影響による経済活動の停滞を主因として、相場が下がった。
- コロナで人や物の流れが世界的規模で停滞し、石油産油国等にも及んだため国内の石油製品の輸入は減少した。
- 石油製品は、同一工程において同一原料から生産される連産品で、冬期の灯油需要に備えてガソリン需要を見込むため、通常、供給量が上回る。
- 新型コロナウイルス感染症へのワクチン開発などが好材料となって国際原油市場が上昇基調にあるため、若干値上がることが予想される。
- 年末年始の在庫については、ガソリン・灯油とも十分に確保されている。

		今年の前格（対前年）	年末年始の見通し	在庫
1	ガソリン	安め	値上げが予想される	十分にある
2	灯油	安め	値上げが予想される	十分にある